



◇特集 右京中央図書館を見学して
◇Report 「読み聞かせ」交流会、全国図書館大会「ボランティアと友の会の集い」

■ 特集 ■

ゆっくり満喫したい図書館

オープンした右京中央図書館を見学してきました

6月30日にオープンした右京中央図書館。開設に当たっては京都市で初めて市民アンケートを行い、市民の声を取り入れ、また今まで京都市図書館にはなかった設備やサービスや工夫もあるとのこと、私たち左京図書館利用者も注目の図書館です。

そこでけやきでは図書館見学会を企画。右京中央図書館の増田副館長は「けやき」を立ち上げた当時左京図書館長であったという縁もあり、増田副館長の案内で見学をし、図書館立ち上げから現状までお話を伺うことができました。

さて、今京都市で一番新しい図書館とは、どんなところでしょうか。

右京中央図書館見学記

地下鉄に乗って図書館へ

「けやき」と「京都家庭文庫地域文庫連絡会」の有志17名は9月8日、開館から約2ヶ月を迎える右京中央図書館に出かけました。

右京中央図書館は、地下鉄東西線「太秦天神川」駅上の複合施設「サンサ右京」内3階にあります。私達が地下鉄駅から地上に出ると「サンサ右京」は目の前にあり、この建物の3階には「夢ふくらむ図書館に右京中央図書館」の横断幕が大きく掲げられていました。この横断幕は3方向に貼り出されているので、車や自転車での利用者もすぐに図書館の場所を確認できるでしょう。

ただ、右京区役所や保健所がある複合施設ビル内に入ると、3階の図書館への行き方を示す案内が何もなく、さて図書館にはどうやって行くのか、とまどってしまいました。目の前のエレベーターに乗る、あるいは、吹き抜けの階段を登ればよいのですが、初めて来たものでもすぐに分かる工夫があるとよいなと思いました。

誰もが使いやすく、心地よい雰囲気好感

3階まで上がり、図書館に入ると、まず「明るい」という印象を受けます。これには、「玄関に入ってすぐの所を暗めに、そして内を明るく」という照明面での工夫、また、白・クリーム色を基調にした壁や書棚、淡いグレー系の床など色彩面での工夫があるようです。さらに書棚に天板が付けられていませんが、こ



バスターミナルから右京中央図書館を示す横断幕が見える

れらは、主役である本を引き立てるために考え出された設計とのことです。

ゆったりとした館内には、手に取った本を読んだり、ちょっとした調べ物をするための椅子や机が備えられています。椅子は250席以上あり、ベンチ風のもの、背もたれのあるものなど様々です。ベンチ風の椅子はできるだけ多くの人が座れるように、1人分のスペースごとに肘かけが付いていたり、座面が1人分ずつ波打たせてあったりなどの工夫がなされています。四角い机には対角線上に不透明の仕切り版がつけられています。こうすることで、1・2人が荷物を置いて占領するという弊害を防ぐことができます。私達が見学に行った日も机は満席で、若い人が本を読む隣で高齢の方が新聞を広げるなど、老若男女がごく自然な形で机を使っていました。こうした様子は、市民誰もが気軽に使える図書館だという雰囲気を出しており、好感が持てました。

商用データベース席。新聞・雑誌記事や官報、判例、論文の検索ができる。百科事典や各種辞書を一度に検索することも可能。



窓際にはハイカウンター之机と椅子が外に向けて置かれ、読書に目が疲れた時に顔を上げれば外の景色が広がります。またこうした場所を利用すれば、思索にふける時にも、他人の視線を気にせずに自分の世界を持続できるのではないのでしょうか。

こんな設備やサービスも

本格的に調べ物をする人にはガラスの壁で仕切られたレファレンスルームが、赤ちゃん連れで授乳の必要がある人や視力が不自由で対面朗読を希望する人にはアシストルームという個室が用意されています。また入口にある交流室には、貸し出し手続きをすませた本を囲んで利用者同士語らうこともできます。自動販売機もあり、くつろぐことができます。

さらに、今までの京都市立図書館にはなかったIT環境も充実しています。インターネットが利用できるパソコンが30台、商用データベースが使える専用端末も4台設置されています。

このように右京中央図書館は、利用者の多様なニーズに応えられる工夫がなされているのでゆっくり時間をつくって1日を過ごしたい図書館です。実際、見学会の後昼食をと思ったのですが、周辺はお店が少なく困りました、複合施設内に軽食がとれるコーナーがあると遠方からの利用者にはありがたいですね。

左京図書館から予約するのもよいのですが、実際に足を運んで1日過ごしてみたいかでしょうか。

(増井)

右京中央図書館 利用案内

開館時間：10時～20時30分（土日祝は17時まで）

児童だけの利用は10時～17時

休館日：火（火曜日が祝日の時はその翌日）年末年始

交通：地下鉄東西線「太秦天神川」駅

市バス「太秦天神川駅前」

京福電車「嵐電天神川」駅下車すぐ

駐車場：79台収容（1時間のみ無料）

616-8104 京都市右京区太秦下刑部町12 サンサ右京3階

TEL 075-871-5336

ホームページ：<http://www.kyotocitylib.jp>



サービスカウンターは入り口正面に

右京中央図書館はこんな図書館

◇◇増田副館長のお話から◇◇

見学会の一行は館内の研修室でまず右京中央図書館紹介のDVDを見ました。それから増田副館長から図書館についてお話を伺いました。増田副館長は平成16年から約4年間、右京中央図書館開設準備室長としてこの図書館づくりに取り組んで来られました。副館長のお話を基に、まず右京中央図書館の概要と特徴を紹介しましょう。

設 備

- ・面積 京都市図書館の中では一番広い。屋外テラスを含めて約3000㎡。
- ・蔵書計画冊数 30万冊。開館時17万冊でスタート。
- ・座席数 250席以上。肘掛けの設置などで、定数通りに座りやすくした。テーブル面に低い仕切りをつけて、4人掛けしても互いが気にならない工夫も。
- ・内装 「本が主役、本を目立つようにしたい」という考えから、床、壁、書架の色は明るくした。書架の天板がなく背板も低いのが特徴で、とても明るい印象になった。
- ・その他、特徴のある設備 ティーンズコーナー、「京都大百科事典ゾーン」、屋外読書テラス、研修室（二つに仕切れる）、アシストルーム（2部屋。対面朗読室、授乳室として使える）、ウッドルーム交流路（交流室）、おはなしのへや、CD・DVD視聴コーナー、電子メディアゾーン（パソコン：インターネット用30台、各種データベース用4台、映像ブース8席）。

利用状況（開館から約2ヶ月の状況）

- ・利用者1日平均2800人 貸し出し冊数1日3800冊前後。日によって4000冊を越えることも。
- ・初日は3700人が利用、7300冊貸し出し。待望の図書館であり、新サービスを見てみようと思来館者が多かったと思われる。
- ・CD・DVDの貸し出し 本よりよく借りられ、ジャンルによっては、ほとんど借り出されている。右京中央図書館開設により、CD・DVD（右京中央及び醍醐中央・こどもみらい館所蔵）は京都市図書館のどの館からでも取り寄せ、返却ができるようになった。

利用者の声を取り入れて

かつて増田副館長が左京図書館長として在任時、増田氏とけやきと様々意見を出し合い「利用者と図書館が手を携えての図書館づくり」を目指しました。今回増田副館長はこれまでのご自分の図書館新設・移転開設経験（岩倉図書館、左京図書館）を踏まえて「今回はそのいい所を取り入れた。自分にとって左京図書館は利用者の声を反映させてつくった初めての図書館とと思っている」とのこと。右京中央図書館は京都市で初めて市民アンケートで、市民の声を取り入れた図書館。また平成16、17年には地元右京区のワークショップ参加者から意見を聞き、さらに19年に京都市子ども文庫連絡会の学習会で「私の図書館づくり」と題した講演をされた折にも要望を聞き、可能なことはできるだけ取り入れたとのこと。例えば、

- ・研修室 映画等の上映に対応できるよう窓には黒いブラインドをつけ、日中でも一定の暗さを確保。
- ・アシストルーム 対面朗読室、授乳室として使える様、ドアのガラス窓に目隠しの工夫。
- ・児童コーナーは左京図書館で初めて採用したコルクタイルに。
- ・雑誌の充実 京都市図書館で最も多い228種配架（一般、参考、児童を合わせて）。
- ・一方、要望のあったインターネットができるパソコンの館内分散配置は、管理上の問題から実現できなかったそうです。



児童コーナー

参加者と増田副館長とのQ&A

Q=参加者 A=増田副館長

建物と内装・マナー・利用者層

Q：外から見て、横断幕があるのがいいですね。

A：左京図書館でしていることをここでも取り入れました。

Q：明るいなあ、広いなあと思いました。開放感があるのがいいですね。

A：入口を入ったところはわざと暗くしてあるのです。遠目にカウンターや行きたいところが明るく見えて分かりやすいようにしました。

Q：この図書館は新しくてきれいで、とてもきちんとした感じがしますね。こういう雰囲気だとマナーもよくなるのではと思いますが、トラブルなどはどうですか？

A：マナーは悪くありませんね。雑誌の切り取りはありましたが、3000人もの人が来館する図書館としてはトラブルはわずかです。

Q：開館時は相当混んでいたそうですが。

A：そうですね。その頃はにぎやかで、ものめずらしきに子どもが走り回っていました。子どもも場所に慣れればそういうことは減るもので、9月に入って落ち着いてきたところです。

Q：今日は平日ですが、他館より若い人を多く見かけますね。

A：若い人の利用は多いと思います。若い人の利用を促進するために、ティーンズコーナーを設置しました。また、ハイカウンターなど工夫しています。

資料の購入

Q：資料の予算は？

A：全国的に減っている中で、当館は計画冊数の30万冊が5年間で達成できる予算措置がなされています。

Q：DVDの棚ががらんとしていますが、引き続き購入の予定はありますか？

A：よく借りられています。CD、DVDは2万点を計画しています。DVDは同じものを複数所蔵できないという決まりがあり、本のように人気のあるものを複数所蔵できないが、計画点数を目指した購入をしていきたい。

DVD視聴・インターネット利用

Q：視聴している人も多いですね。順番待ちとかは出るのですか？

A：DVDは、7インチのDVDプレーヤーで視聴していただいています。12台設置しています。視聴は、席が空いていれば貸出処理をしたものをセルフサービスで見ただけという形式にしています。満席の状態ということ

もあります。

Q：インターネットの利用はどうですか？

A：初めは子どもの利用が多く、ゲームのために来館しているような状況になり、ゲームはできないようにしました。

Q：インターネットの子どもだけの利用はできないようにした、という記事が新聞に出ましたね。反響は。

A：はい、保護者からの苦情などは今のところありません。逆に、記事を見た人が右京中央図書館ではインターネットができる、ということを知って利用される大人が増えました。これからもっと活用してもらえるのでは。

商用データベースについて

Q：商用データベース利用について、利用状況は？

A：端末は4台ありますが、利用は少ないですね。今後、利用の仕方や利点など紹介して行きたいと思っています。映像情報ネットが見られる端末では70クリップの京都の映像もあるのですが、こういうものがある、という宣伝をしていきたいですね。

Q：データベースを家からも見られるようなシステムが大学図書館ではあります。市民の利用者に配信することはできませんか？

A：ある限定された商用データベースならそういうことをやっているところがあると聞いたことはありますが、現時点では無理だと思います。

Q：データベースが利用できる端末を各地域館に置くことはできませんか。市民誰もが情報に接する機会が増えると思うのですが。

A：右京中央図書館がレファレンスをしてバックアップする、というのが今の体制です。もしやるとしても当館での商用データベースの利用が増えて、それから検討ということになるでしょう。

レファレンスルーム利用状況

Q：レファレンスルームの利用は？

A：初め、中・高・大学生が資料を持ち込んで、自習のために占領する状態になったので、申し込み制（カウンターへ申し出る）にしました。

Q：まだまだ図書館は自習できる場所、というイメージをもっている人は多いと思いますが

A：いま公共図書館のサービスは、かつての学生・生徒の勉強部屋から大きく姿を変えて質量ともに発展しつつあります。図書館は地域のすべての人に開かれていま

す。レファレンスルームは、図書館の資料を使って調べものをする部屋です。すべての人が対象です。学生のためだけのものではありません。ただ当館ではその代わり、夏休みの間研修室を小中高校生の夏休みの宿題を応援するというので自習室として開放。申し込みは不要で、平均毎日40人が利用していました。

Q：研修室転用の自習室で子ども同士のトラブルは？

A：それはありませんでした。

児童コーナーについて

Q：児童コーナーが奥まわっていて、安全面に心配は？

A：職員が書架に本を戻すために児童コーナーで作業をしていることも多いですし、腕章をした職員が巡回もしています。

Q：赤ちゃん絵本のコーナーが書棚一段だけですね。

A：今集めているところです。赤ちゃん絵本をまとめたコーナーを準備中です。

Q：赤ちゃん向けのおはなし会は？右京保健所が階下にありますか。

A：赤ちゃん連れの方は多いです。幼児対象のおはなし会は、やっていますが、赤ちゃん向けのおはなし会は今のところ実施していません。

Q：右京保健所では絵本ふれあい事業をしているので、ぜひタイアップをお願いします。ふれあい事業向けのパンフレットも作って下さい。

A：前向きに考えたい。

Q：絵本の並べ方に工夫をしていただければ。広いこともあって今の状態ではとても探しにくいように思います。児童文学の中でも幼年童話を別置するとか。

A：選びやすい工夫が要りますね。何しろ開館してすぐ夏休みで利用が多く日々の業務に追われていました。9月に入ってやっと利用も落ち着きいろいろなことが見えるようになってきたところです。ただ、別置は少ないほうが良いと思っています。

Q：「おはなしのへや」ができましたが

A：ボランティアの方々がおたのしみ会をされています。かなりの人数の子どもが参加しています。

Q：カーテンがついていておはなし会の際には仕切れるようになっていますね。

A：今はカーテンなしでしています。子どもが多く、カーテンの中では入りきらないのです。

参考書

Q：大型参考図書のコーナーで本を出して見ようと思っても、机がそばにありません。

A：大百科ゾーンの書架の前に閲覧できる簡易なテーブルがあり、そこで閲覧できます。資料が重くて移動が難しいときは、職員に声をかけてもらったらお手伝いします。

Q：大型本コーナーの横には外国語の辞書が色々ありますね。

A：辞書は開架しているものだけでも約300冊あります。英語・中国語・ハンガルのものを中心に、様々な言語の辞書があります。

新聞について

Q：外国語の新聞はありますか？

A：ジャパントイムズなど英字紙3紙を置いています。

Q：図書館には朝から新聞を読みに来られる利用者が多いと聞きますが

A：はい。当館では全国紙、地方紙、スポーツ新聞を合わせて20種類を購入していますが、取り合い、といった事態を避け、気持ちよく使ってもらうために京都市図書館で初めて3部ずつ配架しました（書架に2部、交流室に1部）。

Q：交流室にも新聞が置いてあるのですか。

A：はい、交流室は図書館より1時間早い9時からオープンしているので、ここにも主要新聞7紙配架しています。

交流室とは

Q：交流室の特徴を教えてください。

A：図書館内では語り合うことができませんが、この部屋ではおしゃべりもしてもらえます。ガラス越しに館内が見えるところにありますが、図書館の外にあるという位置づけで、図書館の本は貸し出し手続きをしたものであれば持ち込めます。

今後に向けて

Q：カウンターでは職員さんが立っておられますが

A：貸し出し、返却等で利用者がカウンターに来られたら、職員と利用者がともに立って、同じ目の高さで向き合うようにと呼びかけています。

Q：実際すぐに対応してもらえる、という印象をもちました。

A：レファレンスカウンターは腰を落として対応になるので椅子を置いています。

Q：新しい図書館で職員さんもたくさんおられますね。

A：職員に言っていることは「日本の図書館をリードするつもりで仕事をしてほしい」「笑顔なきものは去れ」。開館から2ヶ月、ようやく落ち着いてきたところなので、これからはハードよりソフトを充実させて、職員の力が発揮できるように運営したいと思っています。

(まとめ：島崎)

右京中央図書館 見学会参加者から

細かいところまで使い易さのアイデアが

金川 明子

地下鉄東西線が開通した時、下車し、地上に出て最初に目に入ったのは右京図書館の横幕でした。その時より見学したかったのです。

当日、入り口で迎えてくれたのは 大きな大きなかぼちゃ二つ。そのかぼちゃの重さを当てるクイズ、その並びに様々なお知らせ、お誘いのチラシがびっしり置いてありました。反対側には地域の小学校のカラフルなお便りが展示されていました。地域とのつながりを感じました。

室内は床、壁、書棚、イス、テーブルの色にまで 本を目立たせる配慮がなされています。イスには肘掛がついています。一人でも多く座ってもらうためです。テーブルにも仕切りが付いています。書棚に天板が付いていないのは 開放感をだすためとか、対面朗読室は簡単な操作で授乳室に変わる。設備面では細かいところまでアイデアが生かされていました。市民の声も反映され、子ども用の便座や手洗いもありました。壁に沿って並んだイスはちょっと電車を連想しましたが 室外にある読書スペースは素敵でした。

書棚の本もまだ予定も半分くらいと言うことでしたが多く見えました。CD、ビデオの棚は貸し出しで空っぽでした。図書館内でも見ることができます。利用者のことを考え、新聞も普通2部のところを3部購入している

とか 至る所で心配りのなされている図書館でした。

少し気になるところがあります、聞き漏らしたのかも分かりませんが。小学校の図書室との関係、文庫などのボランティア団体への援助はどのようになっているのでしょうか？また、横幕を見ながら 入り口を探して建物の周りを行きつ戻りつ、やっとたどり着きました。エレベーターで3階にと気が付くまでにかかなり時間がかかりました。

初めてこの図書館に出かけて感動しました

澤田亜希子

右京中央図書館に行ったのは、初めてでしたので、設備と蔵書の新鮮さに単純に感動しました。増田副館長のこの館にかける思いが伝わってきて、それが一層館をよく見せてくれたようです。「利用者」ではなく「お客さん」という言い方がすんなり出てくる、副館長さんの姿勢が館全体に伝わればいいなと思います。

「民主主義の啓」とまで言われるお硬い役割と、市民に親しまれる文化スペースというやわらかい側面のバランスが、図書館には大切だと思います。きれいな館内で、ただでインターネットや映画が見れて、となると、「無料貸し本屋」「無料インターネットカフェ」に傾く力が強くなるでしょうが、「今からです」とおっしゃるソフト面の充実で、バランスの取れた図書館にするのが今後の課題でしょうか。

奥まっているため目が届かないのでは？との指摘があった、児童書のコーナーですが、多少子どもが大きな声を出しても、迷惑にならないというのは、普段左京で

けやきの 本棚 29

私の
おすすめの本

新編弓張月

上・伝説の勇者

下・妖魔王の魔手

曲亭馬琴作 三田村信行文

金田栄路絵

ポプラ社 06年

子どもに会いに行つた島で

王女と会い、「琉」と「球」

という名前の玉を見つければ

王になれる、と教わつた源為

朝が、琉球で玉をさがしま

す。でもさがしている途中で

死んでしまいます。家来の紀

平治がさがしだして為朝の子

どもが王になります。上下二

かんあるけど三日でよみおわ

るほどおもしろいので、よん

でみて下さい。

(小学3年生・ぴー・吉田)

脳はなにかと

言い訳する

池谷裕二著

祥伝社 06年

最先端の脳に関する知見を

面白く、分かりやすく解説し

ている。読みだすと止まらな

いワクワクするような知的興

奮をもたらしてくれる。たと

えば、最初に言つた自分の意見をすぐには変えられないことがよくある。くどくどと言いつつ、そんな心理にも脳の高度な情報処理が機能していることに驚かされる。

(KOさん・下鴨)

日本の朝ごはん

向笠千恵子著

新潮社 94年

以前は特に思い入れがな

かつた私に、朝ごはんの楽し

みを教えてくれた本です。北

海道の酪農家、静岡のお茶農

家、東京での外食の朝食……

朝ごはんがこれほど多様で、

生活に密着した豊かなもので

あったとは。いまや最も楽し

みな食事になりました。

(左京図書館・馬場尚子)

逝きし世の面影

渡辺京二著

平凡社ライブラリー

05年(叢書房版98年)

私たちの前世が照らし出さ

れたふしぎな光の中にいるよ

うな心持ちです。「日本では

生活の中に歴史がない」とい

う言葉のある講演で聞きまし

た。この本はまさにその「生

活の中の歴史」を知らせてく

れるのです。

(会員・川端春枝・一乗寺)

肩身の狭い思いをしている、暴れん坊の母としては、プラスの面のほうが大きく感じました。

商用データベースを使ってみました

北園 裕子

すでに利用した人から、貸出中が多くて本が少ないと聞きながらも期待を膨らませて右京中央図書館に行ってきました。見学前の副館長のお話では、開館以降さまざまな意見が寄せられているとの事ですが、利用も多く期待も大きい図書館だからでしょう。そのような状況の中、基本である「笑顔で対応」「誰に対しても同等のサービスの提供」を心掛けているという言葉が印象に残っています。実際にカウンターで「研修室の利用」について質問したのですが、丁寧に対応していただき実践されていることを実感しました。

後日、商用データベースを使い「官報情報検索サービス」を利用するために訪れました。まずサービスカウンターで用件を告げると、レファレンスデスクに案内されました。そして電子メディアゾーンへ。職員の方がIDとパスワードを入力されてからの使用となり、手順をまとめたファイルを参考に求めている記事にたどり着きました。検索には少しのパソコンの知識があったことが助けとなり、便利さを享受するための努力も必要だと思いました。

レファレンス・サービスを利用して

奥坂 恵子

午前の見学会を終えた後「レファレンス・サービス」を利用しました。東山にある三十三間堂の棟木にまつわる伝説、昔話について調べたかったからです。

レファレンスデスクでその旨告げると、司書さんはすぐにテキパキと調べて、数冊の本を持って来てくれました。中には禁帯出の本もありましたが、レファレンスルームでゆっくり読むことができ、後で必要な部分をコ

ピーしました。

この棟木の伝説は棟木由来話「おりゅう柳」として知られていますが、江戸時代には人形浄瑠璃や歌舞伎でも盛んに上演されたことを初めて知りました。

情報や資料を求めている図書館利用者にとって「レファレンス・サービス」は力強い味方です。図書館は、本を借りるだけのところでないことを改めて実感し、更なる「レファレンス・サービス」の充実を願っています。

左京図書館の利用者から

CD DVDの利用

右京中央図書館の開館に伴い、CD と DVD が最寄りの京都市図書館でも借り出せるようになったということを知ったのは、家族からでした。以前あるアーティストのインタビュー記事で、「高校生の時代に町の図書館でCD を借りているような音楽を聞いたのが、今の財産になっている」と語っているのを読んで、京都にもそんなサービスが始まればいいな、と私は考えていたので、さっそく左京図書館に行ってID の登録を行い、インターネットで取り寄せの予約ができるようにしたのでした。

それからというものしばらくは借り出し可能なCD、DVD を検索して予約するのが楽しくて仕方がありませんでした。自分で購入する資金はないものの、普段から気になっているアーティストや、見逃した映画、NHKテレビの特集番組などを借り出して楽しんでいます。

そんな中でさらに新たなアーティストや映画などとの出会いがあり、生活の中の潤いになっています。

そんな私にとってこれはもう生活に密着したサービスなのですが、問題がないわけではありません。

例えば、人気のあるコンテンツには予約が10人20人待ちになっていることがあたりまえになっています。CD、DVD に関しては貸し出し期間を1週間にして、回転を早くするといったこともいいのではないかと思うのです。
(伊藤)

けやきの活動 08年7月～08年10月

| | | |
|------------------------------------|---|---|
| 7/18 ニュースレターNo.28印刷発送 | 9/20 全校図書館大会兵庫大会「ボランティアと友の会の集い」聴講 (永井) | ・7/11.9/26.10/24. (原則第4金曜日) 絵本学習会 |
| 8/27 左京区ボランティアグループ 連絡会に出席 (増井) | 10/16.23他 「しずくのぼうけん」の 巻き絵とペープサートを製作 (図書館主催行事には協力) | ・7/7.9/1.10/6. (第1月曜他) 事務局会議 図書館とのミーティング |
| 9/1.12.19. 「読み聞かせ」交流会 | | ・7/3.10.17.24.31..8/7.14.21.28..9/4.11.18.25. 10/2.9.16.23 (毎週木曜10:30-12:00) |
| 9/1.12 「読み聞かせ」交流会に 向けて図書館と打ち合わせ | | 絵本コーナーで「あかちゃんに 絵本を」サポーター |
| 9/8 右京中央図書館見学会 | | |
| 9月上旬～ ニュースレターNo.29 取材・原稿作成・編集 | ・7/26.8/23.9/27.10/25. (第4土曜) 図書館おたのしみ会に協力 | |

「読み聞かせ」交流会

9月1・12・19日

左京区南部小学校

「読み聞かせ」ボランティアの研修と交流の集い

◆学ぶ意欲が深まって

左京区南部の小学校で読書ボランティアとして活動する方達の研修と交流の集い「読み聞かせ」交流会が、今年も9月1、12、19日の3回に渡って行なわれました。

左京図書館では、「けやき」の「図書館が学校読書ボランティアの支援を」という提案を積極的に受け止めて下さり、2005年に第1回の交流会が開かれました。翌06年からは研修・情報交換・実践交流を3回計6時間かけて行なうプログラムが、図書館が主催し「けやき」会員も協力して、毎年行なわれています。06年の読み聞かせボランティア交流会については、「けやき」ニュースレター24号で、その内容と参加者の熱意溢れる様子をお伝えしたので、覚えておられる方もいらっしゃるでしょう。

これまでは11月に実施していたのですが、学習発表会などの学校行事と重なることも多かったため、今年度は2ヶ月繰り上げ9月に行なわれました。9つの小学校から毎回20～30人延べ約90人の方の参加があり、図書館の絵本学習会のメンバーなど左京区北部や上京区の小学校で活動しておられる方たちの参加もありました。

第1回は毎年好評の中川あゆみさんによる講義「えほんのきほん」。絵本のもつ力や子どもに絵本を読み語ることの意義について、じっくりとお話してくださいました。活動を始めて間もない方も多く、「子どもたちに絵本を読む」ということを、もう一度原点に立ち返って考えることが出来たと好評でした。

第2回目は、前半が左京図書館の馬場司書の講義「やってみよう！読み聞かせ」。沢山の絵本を例にわかりやすく集団への絵本の読み語りのコツを伝授して下さり、最後に読んで下さった『どんなかんじかなあ』（中山千夏 ぶん 和田誠 え 自由国民社）は、借り出し希望者が続出しました。「司書さんが各小学校でこのような研修をして欲しい」との声も上がりました。後半は、各小学校での活動について事前にアンケートをとり図書館が作成した資料をもとに、情報交換を行ないました。

そして第3回目は小グループに分かれての読み語りの実践交流。6、7人で、全員がおはなし会で読みたい本を持

ち寄って実際に読み語りをしたり子どもの気持ちになって読んでもらったり、絵本の世界を楽しみながら感想や気のついたことを話し合った後、全体で他のグループで出た意見も分かち合いました。「絵本」や「絵本を子どもたちに読むこと」について、今後の学びの意欲も大いに深まりました。この交流会の報告は、図書館がまとめて下さり、各小学校とボランティアグループに届けられます。

◆ボランティアはどこまでを担うのか

2001年12月に国により「子どもの読書活動推進に関する法律」が公布・施行されて以降、京都市でも教育委員会が積極的に奨励したことによって、学校で子どもたちに絵本を読むなどの活動をするボランティアが急激に増えました。しかし大半はボランティア体験も初めての現役の保護者で、我が子には絵本を読んだ経験はあるもののおはなし会で小学生たちにどんな絵本をどんな風に読んだらいいのか、戸惑う声が多数出ました。この左京図書館の「読み聞かせ」交流会や03年から京都市図書館と京都市子ども文庫連絡会が共催し全20館を巡回した「読み聞かせ講座」は、ボランティアが自信を持って子どもたちに素晴らしい本を手渡せるよう学び交流しようと、始まったものでした。

ところで、最近ではボランティアの活動範囲がずいぶん広がっていることを、交流会での各小学校の報告で知りました。従来のおはなし会や学校図書室の本の修理・整理だけではなく、コンピュータ化に伴う作業や、図書室のカウンター当番（中間休みや昼休み・放課後・始業前も）、朝読書の時間の教室での読み語り、学級文庫の配本にまで関わっている学校もあるのです。そして、「先生方から任されている」ことが誇らしげに語られ、「他校がやっているのなら我が校も」とか「私たちに出来ることならどんなことでも」と、情報交換の場の空気がどんどん熱くなっていった時、大きな違和感と危惧を感じました。

我が子が在籍するうちに少しでも学校の読書環境を良くしたいと募る気持ちはよくわかります。けれど一度立ち止まってより視野を広げ、子どもたちにとって、学校

教育全体から見て、ボランティアがそれらの活動を担うのが本当にいいのかどうか、しっかり点検する必要があるのではないのでしょうか。先生方や子どもの図書委員の仕事に肩代わりすることで、その意欲を奪っていることもあるのではないのでしょうか。カウンター当番などで個人情報を知り得たり個々の子どもに対応する活動を行なえば、たとえ悪意はなくとも、見聞きしたことを周りに話すことで子どものプライバシーを侵したり不用意な発言などで心を傷つける恐れもあるのです。図書館員には、個人情報に関して法律で定められた守秘義務があります。学校図書室のボランティアであっても利用者の人権を尊重しなければならないことは、もちろん変わりありません。

各校が掲げた読書教育方針のもと、先生方とボランティアがどう役割分担し力を合わせて行けば子どもたちに豊かな本の世界を届けることが出来るのか、それぞれの現場でじっくり時間をかけ継続的に話し合う必要があると思います。未だ学校司書は配置されておらず司書教諭も担任と兼務で多忙と聞きます。しかし、たとえボランティアで関わる人が図書館司書の資格を持ち有能であっても継続性と責任のないボランティアという立場では司書の代わりは出来ません。ボランティアの活動が、豊かな読書環境を築き子どもたちが本の世界を通して生きる力を培うのに将来的にも真に資するものとなるよう、活動のみちすじがつけられることを願います。

(永井)



REPORT

全国図書館大会関連行事

「ボランティアと友の会の集い」に参加して

9月20日・神戸市

日本図書館協会が毎年開いている全国図書館大会が今年は兵庫県であり、その関連行事「ボランティアと友の会の集い」に参加してきました。満員の会場には、全国各地から参加したボランティア・友の会メンバーや図書館関係者の熱気が溢れてました。

パネルディスカッションが開かれ、姫路おはなしの会（ストーリーテリングの語り手の会）・神戸市立点字図書館くすのきグループ（音訳ボランティアのグループ）・ささやま図書館友の会・福崎町立図書館の4人のパネラーが、詳しいレジュメをもとに日ごろの活動内容やそこから見えてきたもの・今後の展望などを話してくださいました。長年の活動経験を踏まえた深い示唆に富んだお話や、友の会の活動に関しては友の会を結成し活動する市民の側と図書館側の双方の思いを聞くことができました。

なかでも、「図書館とボランティアがそれぞれの立場にきちんと立って、対等な立場で目標に向かって共に進むことが大切」「『言われなくてもする、言われてもしない』自立したボランティアを心がけている」「地域の豊かな人材を活用し、図書館が何を目標しているのか市民に見えるよう友の会は活動している」「新図書館の利用カード登録時に『図書館ボランティアとして得意なことを活かし図書館を応援してください』と呼びかけたと

ころ登録者の約半数がそれに応え、そのなかから友の会『図書館応援隊』が生まれた」「ボランティアは図書館と利用者の間をとりもつコーディネーター、生き生きとしたボランティアの活動は行政をも動かす」といった発言が特に強く心に残りました。

またパネルディスカッションの最初と最後に挨拶に立たれた、日本図書館協会松岡事務局長の「目の前のことだけにとらわれず、国の施策や社会情勢などを踏まえ広い視野をもって活動の方向を探らなければならない」、同塩見理事長の「ボランティアや友の会の活動をより活性化するには、図書館に関心を持つ人を増やす裾野を広げる地道な活動が大事」というお二人の言葉も、肝に銘じました。

終了後会場前のロビーで兵庫県内のグループの活動紹介展示を見ていたところ、横浜市の「よこはまライブラリーフレンド」の方と交流することができ、いろいろ参考になるお話を伺いました。けやきニュースレターのバックナンバーも展示コーナーで出会った方たちに持ち帰っていただくことができました。

(永井)

◆冊子「兵庫県・図書館ボランティアと友の会一覽」や事例発表のレジュメ、他団体のパンフレット等、ご覧になりたい方は永井まで。

